

体験談 「文献管理ソフト EndNote を活用した論文作成」

Paper superintendence software "EndNote" practical use way

田中功一 (放送大学)

放送大学 (The Open University of Japan)

(キーワード)

文献管理、管理ソフト、論文作成、参考文献、EndNote

私たちは論文を書くとき、自分のテーマに関連する他の研究者らの研究の文脈について意見が異なる場合でも共有して進めることが多いと思います。関連する論文を広範囲に読んでいくと、次第に自身の着眼点が見えてくる場合がありますが、参考論文数が多くなるとその管理方法を考えたくになります。文献管理ソフトは参考文献となる論文を管理するソフトであり、このソフトの使用により論文作成がスムーズになります。ここでは筆者が使っている文献管理ソフト”EndNote X8”¹の活用例を体験的に述べたいと思います。

論文作成のスタートにおいて、自身の研究に関連する先行研究を J-STAGE や CiNii で検索して読み進めていくと、次第に自身の論文の題目が見えてくる場合があります。その過程でノートに記録することがあると思います。文献管理ソフトを使うと論文のダウンロードと保存、論文へのメモなどを一覧にまとめて管理できるため、執筆のストレスが軽減されます。

G-STAGE や CiNii から論文を download する際、図 1 の画面が表示されます。”EndNote”を選択すると、論文と書誌データが自分のパソコンの”EndNote”内にダウンロードされます。各論文に対して自身のメモ書きができるので、文献量が多くなると便利です。私は自身の論文に引用したい部分を抜き出して”EndNote”に保存し、それに対する意見をメモしますが、この論文作

成支援ツールとしての機能は威力を発揮すると感じています。また、Word との連携では図 2 のように Word 画面に”EndNote”が示されるので、参考文献の書式も簡単に変更可能です。引用論文は巻末の参考文献一覧に自動的に表示されるため、管理の煩わしさが軽減されます。書式も指定できるため、出稿先の学会が変わっても、新たな書式に自動的に変換されます。

高価なソフトですが強力な機能が備わっていると思います。また、機能は限定的ですが無料版の EndNote basic もあるようです。

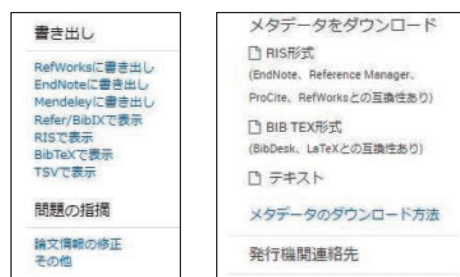


図 1 download (左: CiNii、右: J-STAGE)



図 2 Word メニューに示された EndNote X8

¹ ユサコ株式会社
(USACO Corporation) <https://www.usaco.co.jp>